

社会福祉法人 めやす箱
地域生活部門
2022 年度 事業報告

(1) 地域生活部門事業

倉敷市生活困窮者自立相談支援事業
倉敷市生活困窮者家計改善支援事業
倉敷市被災者生活困窮自立支援事業
倉敷市アウトリーチ等の充実による自立相談支援機能強化事業

(2) 地域生活部門目標

法人理念及び基本方針を基に、2022 年度部門目標を下記事項に定める。

- 「 生活困窮者・被災者の主訴に対し専門的観点から適切な支援を行う 」
- 「 関係機関と協働した生活困窮者の早期発見・早期支援の実践 」
- 「 生活困窮者・被災者の意思を尊重し、寄り添い・伴走型の支援を行う 」

① 生活困窮者の主訴に対し、専門的観点から適切な支援を行う

生活困窮者の要望・特性に応じた支援に取り組んだ。

課題や問題に対して適切なアセスメントを行い、支援に繋げ早期解決を目指し、支援機関と連携し取り組んでいった。

今年度の相談件数は、12,839 件となっており新型コロナウィルス感染症の影響により生活困窮状態での相談が後を絶たなかった。

関係機関との連携についても数多くあり、日々の支援を通しての取り組みの中で、丁寧な連携を行ってきた成果が出ている。

一般就労に向け、ハローワークを含む関係機関との連携を綿密に行い、無料職業紹介窓口事業等を積極的に活用し、オーダーメイド型の就労支援に取り組んだ。

結果今年度 件の一般就労に繋ぐ事ができている。

② 関係機関と連携し、生活困窮者の早期発見・早期支援を実践について。

地域の支援機関や団体と連携し、生活困窮者が SOS の言える相談窓口を地域に増やし、自立支援機関に円滑に繋がり体制作りに取り組んだ。

個別ケース対応を通して、民生委員との連携や地域のインフォーマルサービスとの連携を行ってきた。

地域からの繋ぎは、課題があり地域埋もれている困窮ケースにどうアプローチしていくかが今後重要である。

支援調整会議におけるケース検討会の開催、緊急的支援時におけるケース会議を行い、関係機関とのハブ的役割りを担っていき、困窮者支援の軸となる事が出来ている。

③ 生活困窮者・被災者の意思を尊重し、寄り添い・伴走型の支援を行う。

生活困窮に対して様々な課題に焦点をあて、相談員の課題やニーズに応じた支援が行えるよう関係する支援機関と連携し、支援に取り組んだ。
複合的な課題において、特に連携は必須であり切れ目のない支援の取り組みについて、支援調整会議や個別ケース対応の中で、寄り添い・伴走型の相談支援を中心に支援に取り組んだ。

(3) 地域生活部門事業展開について

新型コロナウィルスによる生活困窮状態が長期化し、より一層生活困窮者が増加する中で、早期の自立支援を初め、困窮者個々のニーズに対する早期支援・早期解決、自立に向けた積極的な支援を実施した。

今年度の相談件数が、12,839件となっており、昨年同様相談件数が増加の一途を辿った。困窮状態が、肥大化し早急な支援が必要な相談者も散見され、必要な制度や支援策に、確実に繋がれるよう、伴走する支援の必要性が顕著に表れていた。

個々の課題・問題に対する支援において関係機関と連携し、困窮者地域生活支援提供する事で、困窮状態からの早期の自立、社会的孤立の改善を目指し支援に取り組んだ。

(4) 地域生活部門研修計画

月	活動名
4月	<ul style="list-style-type: none">・支援調整会議（定例・就労対象者・就労準備・引きこもり支援）・倉敷市要保護児童対策協議会・被災者支援事業会議
5月	<ul style="list-style-type: none">・支援調整会議（定例・就労対象者・就労準備・引きこもり支援）・倉敷市要保護児童対策協議会
6月	<ul style="list-style-type: none">・支援調整会議（定例・就労対象者・就労準備・引きこもり支援）・倉敷市要保護児童対策協議会・被災者支援事業会議
7月	<ul style="list-style-type: none">・支援調整会議（定例・就労対象者・就労準備・引きこもり支援）・倉敷市要保護児童対策協議会・子どもの貧困連携推進会議
8月	<ul style="list-style-type: none">・支援調整会議（定例・就労対象者・就労準備・引きこもり支援）・倉敷市要保護児童対策協議会・被災者支援事業会議
9月	<ul style="list-style-type: none">・支援調整会議（定例・就労対象者・就労準備・引きこもり支援）・倉敷市要保護児童対策協議会・就労困難者の就労支援に向けた連携推進会議

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会 ・被災者支援事業会議
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会 ・被災者支援事業会議
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会 ・被災者支援事業会議
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・支援調整会議（定例・就労対象者・就労準備・引きこもり支援） ・倉敷市要保護児童対策協議会 ・被災者支援事業会議

2022年度 社会福祉法人 めやす箱
倉敷市生活自立相談支援センター（倉敷市生活困窮者家計改善支援事業）
事業報告書

1. 事業概要

倉敷市生活自立相談支援センター家計改善支援事業における事業の実施体制について

(施設の名称) 倉敷市生活自立相談支援センター 家計改善支援事業

(実施場所) 岡山県倉敷市阿知1丁目7番2-804-2号
くらしきシティープラザ西ビル8階

(事業責任者) 池田 朋宏

(事業担当者) 大橋 拓馬

(資格) 社会福祉士・精神保健福祉士・ファイナンシャルプランナー3級

・1週5日とし、週2日（火・木）を家計支援業務に従事した。

月	火	水	木	金
自立相談	家計改善	自立相談	家計改善	自立相談

令和4年4月 ～令和5年3月	家計改善支援員	合計
主任相談員兼務	0. 1人	0. 1人
相談支援員兼務	0. 4人	0. 4人

2. 事業実績について

(令和4年度目標値)

・家計改善支援事業利用決定件数 48件/12ヶ月

(令和4年度実績値)

・家計改善支援事業利用決定件数 50件/12ヶ月 達成

・新規相談件数 2,011件/12ヶ月

・家計改善支援終結目標と照らし合わせて家計再生が達成 49件/12ヶ月

(評価内訳5段階表)

- ① 上回って達成 6件
- ② 達成 32件
- ③ ほぼ達成 0件
- ④ 一部達成 10件
- ⑤ 達成できなかった 0件

*事業延長 1件

・家計改善利用者返済金額 932.87万円（市県民税・国民健康保険滞納額含む）

3. 事業目標達成の具体的取り組み

- ・生活困窮状態にあり、最低限度の生活を維持する事ができなくなるおそれのある者や、家計収支の均衡が取れず、家計に課題を抱えている世帯及び個人に対し、家計改善支援事業を実施した。

昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大によって生活困窮状態に陥り、多重債務や過剰債務を抱え、返済が困難となっているケースや家賃・水道光熱費・学費・保育料、税金などの滞納等家計に不安を抱いている家計改善支援に取り組んだ。

令和4年度家計改善支援事業の新規相談は、2,011件となっており、家計改善支援事業利用数も50件と、年度当初の目標値を達成している。

家計改善支援事業では、①家計改善や管理に関する支援。（家計表等の作成支援・出納管理の支援）②家計の課題・問題点を解消する為の、相談時家計表の作成を行い、収支状況、債務滞納解消、世帯に於けるライフイベントなど、家計の状況や見通しを明確にした支援。③家計の課題に焦点をあて、家計の収支バランスを見る化し、相談者が家計の課題に気付き家計管理や改善を目的とした支援。④税金滞納解消における、分納相談や減免制度の利用、債務整理等の支援。⑤家計管理の重要性の認識や収支に応じた家計範囲を理解して、計画的に収支が立てるよう、定期的な家計相談を中心とした支援。⑥「家計改善計画書」「相談時家計表」「キャッシュフロー表」を作成し、相談者と共に家計再生の具体的な支援内容や家計改善の道筋支援を明確に、本人を主体とした家計改善支援。以上6つの事を目的とし、相談者自らが家計の課題に焦点をあて、家計の収支バランスを見る化し、自ら家計管理が行える事を、目標と支援に取り組んだ。

昨年度より新型コロナウイルス感染拡大の影響により、社会福祉協議会の総合支援資金の貸し付けを受けた人達の返済が、令和5年1月より開始となっている。

それに伴い、貸し付け返済に道筋をつける為の相談や返済猶予の相談対応に取り組んでいる。

債務超過の相談については、倉敷市消費生活センターと連携し、債務整理についてのアドバイスや弁護士や司法書士などの司法の専門家のへの繋ぎを行い、具体的な債務整理について、専門家と連携した家計改善支援に取り組んでいる。

税金の滞納相談については、関係各所（納税課・国民健康保険課・住宅課等）同行し、滞納改善に向けての分納相談に取り組んだ。

分納相談では、相談者と共に家計表やキャッシュフロー表を作成し、滞納完済に向けた返済相談を実施。

返済状況の確認や返済計画の見直し等遅定期的な家計相談を実施し、伴走型の家計改善支援を実施している。

家計改善支援事業の対象者の繋ぎは、行政機関（納税課・国民健康保険課・住宅課・消費生活センター・保健所等）・民間機関（高齢者支援センター・障害者支援センター・社会福祉協議会等）からの依頼が年々増加しており、関係機関と連携した支援を行う事

は出来ている。

家計改善支援事業利用決定者のうち返済計画を立て返済した金額については、今年度932.87万円となっている。

相談者が主体となり、関係機関・専門家と連携し、返済計画を家計改善支援事業のプラン化する事で、プラン内容に沿って返済する事ができている。

定期開催をしている家計改善支援事業支援調整会議では、家計改善支援事業が必要な対象者の課題や支援の方向性支援内容について確認を行い、支援継続者のモニタリングや支援終結の有無についても検討している。

家計改善支援事業支援調整会議新規検討者 50名

家計改善支援事業支援調整会議モニタリング検討者 49名
となっている。

モニタリング検討者は、家計改善支援事業支援調整会議において終結評価の内容として、「家計改善支援終結目標と照らし合わせて家計再生が達成した件数が 49件/12ヶ月」となっている。

(評価基準について)

- ・家計状況を生活に把握し再生に向けた意識の向上
- ・家計管理ができ、収支に応じた生活ができ安定化
- ・自力で家計管理ができ再び困窮状態になる事を防止
- ・税金滞納・債務の解消ができ収支に応じて無理のない生活を送れるようになる
- ・収入増収が見込め、生活基盤が安定し生活困窮の予防や生活の再建が行えている

これらの評価基準を基に、プラン内容に対する終結評価を行い、家計改善支援事業の効果検証を確認している。

○ 家計改善支援事業終結評価の内訳

- ① 上回って達成 6件
- ② 達成 32件
- ③ ほぼ達成 0件
- ④ 一部達成 10件
- ⑤ 達成できなかった 0件

上記結果となっており、家計改善支援の効果が表れている。

4. 年間活動計画

月	活動名
4月	・家計改善支援事業 支援調整会議（28日）
5月	・家計改善支援事業 支援調整会議（30日）
6月	・家計改善支援事業 支援調整会議（27日）
7月	・家計改善支援事業 支援調整会議（26日）

8月	<ul style="list-style-type: none"> ・家計改善支援事業 支援調整会議（29日） ・ひきこもり担当者連絡会（31日）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・家計改善支援事業従事者養成研修（1～2日） ・アウトリーチ（訪問支援研修【前期・オンライン】（8～9日） ・アウトリーチ（訪問支援研修【前期・集合研修 東京】（12～14日） ・家計改善支援事業 支援調整会議（28日）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチ（訪問支援研修【実地研修・特定非営利活動法人青少年援助センター】（17～25日） ・家計改善支援事業 支援調整会議（28日）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・家計改善支援事業 支援調整会議（28日）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・家計改善支援事業 支援調整会議（26日）
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮者自立支援制度におけるブロック別研修（中国、四国ブロック）（19～20日） ・家計改善支援事業 支援調整会議（27日）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチ（訪問支援研修【後期・オンライン】（1～3日） ・家計改善支援事業 支援調整会議（28日）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・家計改善支援事業 支援調整会議

7. 研修一覧表

実施月	研修名	研修内容
8月	・ひきこもり担当者連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり支援を行っている関係機関で、取り組みの現状と課題の共有を行っている。 ・新型コロナウィルス感染予防の為、オンラインで実施している。
9月	・家計改善支援事業従事者養成研修	<ul style="list-style-type: none"> ・家計改善相談員のスキルアップを目的とした研修となっている。 ・今年度は新型コロナウィルス感染予防の為、オンライン研修及び課題提出を行っている。
9月	・アウトリーチ（訪問支援研修【前期・オンライン、集合研修】	<ul style="list-style-type: none"> ・講義や演習を通じて、アウトリーチに関する知識、技法等の向上を目的とした研修になっている。 ・集合研修は、東京で実施し、全国各地の職員が参加している。
10月	・アウトリーチ（訪問支援研修【実地研修・特定非営利活動法人青少年援助センター】	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都福生市にある特定非営利活動法人青少年援助センターでアウトリーチ支援に関する講義を受け、支援同行をしながら、アウトリーチ支援を行っている。

	少年援助センター】	チ支援の技法について学びを深めている。
1月	・生活困窮者自立支援制度におけるブロック別研修（中国、四国ブロック）	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における困窮者支援の現場の様々な苦労や地域が直面している課題の共有や制度についての理解を深めている。 オンラインで研修に参加している。
2月	・アウトリーチ（訪問支援研修【後期・オンライン】	<ul style="list-style-type: none"> 前期研修及び実地研修で習得した内容を整理した上で、研修生間での情報共有等を目的した演習を行っている。

2022年度　社会福祉法人　めやす箱
倉敷市生活自立相談支援センター（倉敷市生活困窮者自立相談支援事業）
事業報告

1. 事業概要

倉敷市生活自立相談支援センターにおける人員配置に実績について
(施設の名称) 倉敷市生活自立相談支援センター 家計改善支援事業
(実施場所) 岡山県倉敷市阿知1丁目7番2-804-2号
くらしきシティープラザ西ビル8階
(事業責任者) 池田 朋宏
(資格) 社会福祉士・精神保健福祉士・ファイナンシャルプランナー3級
(人員配置)

令和4年4月 ～令和5年3 月	センター長 主任相談員	相談員兼家計 改善支援員	相談員	就労支援員	合計
	0.9人	0.6人	4人	3	8.5

自立支援給付金事業における人員配置の実績

(人員配置)

令和4年4月 ～令和4年12月	事務員 (非常勤)	令和5年1月 ～令和5年3月	事務員 (非常勤)
	3人		1人

2. 事業実績

(令和4年度目標値) (令和4年度実績値・達成度)

- ・新規相談件数 1,504件/12ヶ月 ⇒ 12,839件/12か月 達成
- ・支援計画策定件数 752件/12ヶ月 ⇒ 3,909件/12か月 達成
- ・就労支援対象者件数 462件/12ヶ月 ⇒ 3,231件/12か月 達成
- ・就労、増収者数 346件/12ヶ月 ⇒ 1,687件/12か月 達成

(令和4年支援実績値)

●延べ相談実施状況

令和4年4月～令和5年3月・・・11,934件

●自立相談支援事業における就労支援実施状況

(就労支援実施結果件数)

就職成功者数・・・549人

就労増収者・・・1,525人

●自立相談支援事業における食糧支援実施状況（食糧支援実施件数）

令和4年4月～令和5年3月・・・1,454件（述べ実施件数4,225件）

●デリシャスフードキッズクラブ支援実施状況（支援実施件数）

令和4年4月～令和5年3月・・・168件

●自立相談支援事業における無料職業紹介実施状況（無料職業紹介実施件数）

令和4年4月～令和5年3月・・・利用実施回数 10,082件

求職者数（利用者数）・・・ 2,519人

求人数（求人掲載企業）・・・ 203件

企業開拓数・・・ 267件

就職者数・・・ 326件

●居住支援実施状況

令和3年4月～令和4年3月・・・568件

3. 事業の具体的な内容について

①新規相談者への支援介入及び持続的な支援について

・より多くの相談者に対し自立支援の提供できるよう、相談支援において積極的な支援提案を行い、必要な支援に繋ぐ事を目標とし取り組んでいる。

令和4年度の新規相談件数が、11,934件（月平均約900件強）と昨年度用高止まり傾向が続いている。

主な要因は、コロナによる休業、減収、離職による生活困窮状態での相談や、緊急小口資金・総合支援資金の利用者への拡大や、新型コロナウイルス生活困窮者自立支援給付金の延長、住居確保給付金の要件緩和による利用者増が挙げられる。

そのような状況下で、断らない相談支援を実践し、支援者の主觀のみで、相談対応を行わず、相談者の主訴に応じた相談支援に取り組んだ。

相談者に分かり易く事業説明を行う事で、センター支援に同意を得て、支援介入を迅速に行えるよう、相談者個々に、支援メニューの活用や住居確保給付金等の各制度の正確な説明に尽力している。

その効果もあり、令和4年度支援計画策定件数 3,913件（月平均320件）となっており、目標値の年間支援計画策定件数 752件を大きく上回り、より多くの困窮者の支援に取り組む事ができている。

また、生活再建が行えるまでの期間、継続的且つ切れ目のない支援に取り組む事が出来ている。

新型コロナウイルス生活困窮者自立支援給付金についても、令和4年12月31日まで申請が延長となり、申請受付業務や記録業務等を担っており、正確かつ適切に申請業務を遂行している。

また、給付金受給者への相談支援と就労支援を継続的に行い、生活再建に向けた自立支援を行っている。

センター独自支援に一つである、食糧支援を実施しており、食糧支援のニーズも高く、継

統的な支援が必要となっている。

食糧支援も重要な現物給付の支援ツールになっている。食糧支援によって、飢えを解消できた相談者も多くおり、より一層支援の必要性が立証されている。

食糧支援新規利用者が、年間 1454 人となっており月平均で換算すると 120 人に提供し、月の延べ回数 350 件となっている。

食糧の確保が課題となっており、岡山フードバンクとの連携や地域からの寄付で賄っている他、当法人の社会貢献事業の取り組みで年 2 回実施しているフードドライブ事業も、貴重な食糧確保の場になっている。

フードバンク新規利用者 1,454 人

延べ支援回数 4,225 回

②困窮者支援を通して関係機関との連携強化について

- ・困窮者支援には複合的な課題を抱えている世帯支援が数多くあり、各課題に関連する関係機関が適宜迅速連携する必要がある。

令和 4 年度の関係機関からの繋ぎのあった件数は 22,174 件（延べ件数含む） となっており、各機関との連携、支援機関同士の顔の見える関係作り、関係機関が互いに支援内容を理解する事で円滑でスピーディーな支援連携が行う事ができている。

また、センターが軸となり、支援のマネジメントを担う事も多く、関係機関との橋渡し的な存在として、継続した支援連携に繋がるよう意識して取り組んでいる。

生活困窮者定例支援調整会議、個別随時支援調整会議においても、定期的に実施し、困難ケースの情報共有や、支援の方向性、関係機関との連携した支援に努めた。

また、他機関の会議や研修の参加、関係機関との同行支援など積極的に行い、円滑な連携が行えるよう努め、各機関との連携、支援機関同士の顔の見える関係作り、関係機関が互いに支援内容を理解する事で円滑でスピーディーな支援連携が行う事ができている。

③一般就労開始者・就労増収者の更なる増加について

- ・ハローワークや各関係機関との更なる連携強化を行い、就労者や収入増収者を増やし、生活再建が図れるよう支援を行っている。

令和 4 年度生活保護受給者等自立促進事業利用者 159 件

当事業利用者における就職数 219 件

となっている。

また、当センター独自の就労支援として、無料職業紹介窓口業務の運営・活用に力を入れて支援を行っている。

支援の独自性として、相談者の特性に応じた求人紹介、求職者の就労支援（ジョブサポート支援）、面接等に必要な支援を行い、就労継続支援では、就職先の企業と連携し、継続就労ができるよう支援に特化、就労定着支援では、就職先の企業と連携し、訪問・特性に応じた支援、就労定着に向けた支援に取り組んでいる。

生活保護受給者等自立促進事業利用者の利用期間である 9 か月利用しても就職に結びつかない相談者・就労準備事業利用後の相談者・長期離職者や引きこもりからの脱却後の支援等、職業安定所での就職支援が困難な対象者の受け皿的な役割として実施。

無料職業紹介事業支援実績として、無料職業紹介事業求職者数は、10,082 件となっており、利用者数が伸びている。

これは、高齢者やフリーター、ニート引きこもり等、ハローワークでの就職活動では、なかなか就職に結びつかず、より手厚い支援が必要な支援対象者が増加している為である。その為、就労に必要なスキルのアセスメントを丁寧に行い、対象者の強み弱みを把握し、企業見学や企業開拓を実施し相談者と企業とのマッチングを行い、就職に結びつける取り組みを実施。

その他にも、就労セミナーを開き就労に必要なスキルの習得に向けた支援や、企業人材担当者を講師に招き、必要とされる人材像について話をしてもらうなど、個々の状態・状況応じた支援を行っている。

無料職業紹介事業による就職者数は、2,519 件となっており、事業成果が表れている。

就労セミナーの開催も以下の日時で実施している。

就労セミナー

テーマ「仕事探しの前に自分探し～私の強みは～」

テーマ「就職活動に必要なスキルについて」 11月 19 日実施 参加者 10 名

テーマ「山陽新聞お仕事説明会」 2月 21 日実施 参加者 8 名

当事者同士での交流の場、企業担当者とのマッチングの場など、様々な機会を提供し、社会性の向上にも繋がるよう支援を行っている。

④任意事業との連携について

- ・就労準備支援事業・就労訓練事業等、就労支援に特化した任意事業を活用し、相談者の状況に応じた、就労支援を行い、相談者の自立に取り組んでいる。

就労準備支援利用者 44 件（支援決定述べ件数含む）

就労の準備的な支援が必要な対象者に対して、くらしき就労準備支援センター連携し支援に取り組んでいる。

定例開催の支援調整会議にて、新規利用者の情報共有や支援の方向性の検討、支援継続者の

モニタリング等を行い。就労準備利用期間中から事業終了後の連携を密に支援を実施している。

学習支援や小学生訪問型事業・学習支援事業と連携し、困窮世帯の児童に対して、積極的な支援に繋げている。

学習支援くらすぽ利用者 繫ぎ 66 件

小学生訪問型事業・学習支援事業 43 件 となっている。

事業実施中に関しても、各団体との情報共有は行い、生活支援を継続して行っている。また、困難ケースにおいては、適宜ケース会議等を開催する等関係機関との連携支援を実施。一時生活支援事業利用者についても一定のニーズがあり、派遣切りによる住宅喪失、家賃滞納より住宅退去などにより、住まいを失う相談が寄せられている。

一時生活支援事業利用者 9件

一時生活支援事業では、生活保護による生活再建を望まず、当センターの自立支援を希望し、概ね3か月の利用期間の中で職の確保・住まいの必要な資金の確保・居住の確保を行う支援である。また、携帯電話などの確保、家族との連携など、多岐に渡っての支援が必要となる為、関係機関と連携したスピード感のある支援を実施している。

転居支援についても、「保証人がいない」「初期費用が工面できない」「短期間での入居が必要」などの課題がある相談者に対して不動産業者と連携し、低家賃の物件、保証人不要な物件など相談者の状況に応じた物件情報を共有、保証人がいない場合、保証協会やNPO団体の保証人制度を利用した支援する等、他分野との支援連携を行い、早急な支援を行えている。

⑤一人親支援の対策の強化について

養育費の問題・就労問題・家計の問題等、貧困に陥る課題について、包括的且つ継続的な支援を行っている。

一人親支援における伴走型の支援の実施、状況に応じて養育費の問題・就労問題・家計の問題等貧困に陥る課題について包括的継続的に支援を実施。

養育費等については、ウィズアップ倉敷や弁護士と連携し、手続等の補助的支援や裁判所への動向支援等を中心に行っている。

生活支援では、上記のような同行支援の他、就労支援・家計改善支援・食糧支援なども実施している。

デリシャスフードキッズクラブ (DFK) 新規利用者 168件の利用となっている。

順正学園と綿密に連携し相談者の家庭状況や困窮状況、センターでの支援状況共有など円滑食糧支援を実施している。

生理の貧困についても取り組んでおり、倉敷市より防災備蓄品である生理用品の寄付を受けて、当センターで対象者に配布している。

生理用品配布利用者は、189件となっており、依然利用ニーズは高く引き続き生理用品の配布は行っている。地域で活動する団体トワイライトホームや子ども食堂ミソラ♪(子ども食堂・子育て支援団体)と食料支援を通じて連携し、個別のケースでの連携も行えている。

⑥引きこもり・障害疑い等、配慮が必要とされる相談者の支援強化

アウトリーチ支援等の訪問支援・家族を対象にした支援・関係機関と連携した支援等、

様々な観点から支援アプローチを行い、継続的な支援を実施している。
引きこもりの支援調整会議では、引きこもり状態にある相談者への支援の方向性やアプローチ方法等、専門的な見地からアドバイスや助言、情報提供を受け支援につなげる事ができている。

引きこもり支援調整会議新規検討研修 41 件

支援継続等のモニタリング検討件数 51 件 となっている。

支援に繋がるまでの期間は、アウトリーチでの支援を中心に行い、支援が繋がると就労準備支援や無料職業紹介事業を活用し、オーダーメイド型の支援に取り組んでいる。
また、居場所支援として、他団体と連携しワークショップを開催している。

ワークショップ

・内容：「ワークショップ第一回！SDGS を学ぼう！広げよう！自分アレンジ！廃材・布を使ったリメイク活用術！」

講師を呼んでエコバック作り・SDGS カラーのストラップづくりを通して居場所を提供している。当センターが、相談者にとっての一つの場所になれるよう取り組んでいる。
引きこもり支援では、専門的な支援スキルが必要となる為、関係機関との勉強会や研修会に積極的に参加し、関係機関との関係作りやスキル向上に向け取り組んでいる。支援連携を円滑にする為には、関係機関と良好な関係性保つ必要があり、機関同士相互理解の上、関係を構築していく事が必要である。

関係機関との勉強会や研修会に積極的に参加し、当センターについての周知する事で、具体的な連携方法も共有する事ができ、支援連携が円滑に行われ、相談者の自立支援に向け支援基盤を整える事に繋がっている。

⑦自立相談支援員と家計改善支援員のスキルアップに取り組みについて

自立相談支援員・家計改善支援員が国の研修に参加しスキル向上に取り組んだ。また、積極的に研修に参加し、支援者のスキル向上に取り組んでいる。

国家資格取得等自己研鑽にも取り組み、更なるスキル向上に取り組む事が出来ている。
令和 5 年度も引き続き勉強会や研修会には積極的に参加し関係機関と連携や社会資源の構築、新たな連携先の確保等を行い、相談員個々のスキル向上に取り組んで行く。
生活困窮者の早期の問題・課題の解決や自立に導く支援を行い、「生活困窮者の自立と尊厳の確保」と「生活困窮者を通じた地域づくり」を念頭に支援目標・支援理念に基づき専門職として真摯に生活困窮者の自立支援に取り組んでいく。

●令和 4 年度関係機関一覧

福祉援護課・生活福祉課・子育て支援課・子ども相談センター・健康づくり課・保健課・生活安全課・消費生活センター・健康長寿課地域包括ケア推進室・介護保険課・男女共同参画課、男女共同参画推進センター・資産税課・納税課・国民健康保険課・住宅課・障害福祉課・倉敷

市保健所・倉敷市教育委員会・倉敷職業安定所ハローワーク・高齢者支援センター・倉敷市社会福祉協議会・倉敷地域基幹相談支援センター・倉敷就業生活支援センター・倉敷地域活動センターⅠ型・民生委員・スクールソーシャルワーカー・民生委員・不動産業者・医療機関・その他関係機関多数

4. 令和4年度活動実績表

- 毎月定例・就労準備・家計改善支援事業・ひきこもり支援対象者支援調整会議・プラン確認会議を毎月開催している。

月	活動内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・重層的支援体制整備事業、検討ワーキングチーム（第4回）
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・倉敷地域自立支援協議会精神部会 ・令和4年度第1回「児島地区要保護児童対策地域協議会」並びに「児島地区子育て支援協議会」 ・重層的支援体制整備事業、検討ワーキングチーム（第5回）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・SSW・福祉援護課・生活困窮支援関係事業者連携会議 ・令和4年度「アウトリーチ（訪問支援）研修」に係る研修生募集要項 ・令和4年度「児島地区要保護児童対策地域協議会」並びに「児島地区子育て支援協議会」会長・副会長の御報告 ・令和4年度「アウトリーチ（訪問支援）研修」に係る研修生の決定について（通知） ・令和4年度倉敷市要保護児童対策地域協議会の開催について（通知） ・SSW・福祉援護課・生活困窮支援関係事業者連携会議 ・令和4年度倉敷地域自立支援協議会精神部会の開催について（依頼） ・令和4年度ひきこもり担当者連絡会の開催について ・令和4年度倉敷もの忘れ・認知症事例検討会のご案内
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・令和4年度家計改善支援事業従事者養成研修開催事項 ・【情報提供】（ご案内）ひきこもり地域支援センター職員等への人材養成研修（初任者研修）の開催について ・令和4年度ひきこもり家族教室の開催について（依頼） ・令和4年度倉敷市要保護児童対策地域協議会代表者会議 ・ひきこもりの理解促進と支援向上のための研修会～実践編（ビデオ視聴）～ ・ひきこもりの理解促進と支援向上のための研修会～基礎編（ビデオ視聴）～ ・ひきこもり地域支援センター職員等への人材養成研修（初任者研修）の開催について

	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度被災者見守り・相談支援等事業個別支援会議の開催について（依頼） ・不登校の子どもが人とつながり学びあえる場つくり ・令和4年度自立相談支援事業従事者養成研修・就労準備支援事業従事者養成研修受講決定通知書
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・倉敷市要保護児童対策地域協議会研修会「ヤングカラー」実態と支援の課題 ・倉敷市市民後見人養成講座説明会参加者募集 ・特定求職者雇用開発助成金にかかる情報交換会 ・社会課題の解決を考える ワークショップ
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・自立支援事業従事者養成研修・就労順美支援事業従事者養成研修開催要項 ・令和4年度水島地区福祉講演会・心の健康づくり講座～ひきこもりは特別なこと？～ ・ひきこもり支援を考える専門分科会 ・令和4年度倉敷地区要保護児童対策地域協議会代表者会議の開催について（通知）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・初任者研修申込〈個人単位〉 ・ひきこもり支援フォーラム2022 ・令和4年度第2回倉敷地域自立支援協議会精神部会の開催について（依頼）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・令和4年度テーマ別研修開催事項 ・第9回生活困窮者自立支援全国研究交流会 ・令和4年度多様な生き方ができる地域社会の実現のための市民講座～誰も孤立しない社会を目指して～ ・水島地区要保護児童対策地域協議会代表者会議について（ご案内）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・支援者支援についての研修ご案内～きっかけ～ ・令和4年度生活困窮者自立支援制度におけるブロック別研修開催要項（厚生労働省委託事業） ・地域ネットワーク形成のための市町村関係職員その他の支援活動従事者等を対象とする研修事業開催要項 ・支援が必要なこどものための組織を超えた連携の具体的方法を考える ・令和4年度生活困窮者自立支援業関係機関研修会 ・民生委員児童委員研修の講師派遣について（依頼）

	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷市高齢者・障がい者権利擁護支援ネットワーク会議 ・令和4年度玉島地区要保護児童対策地域協議会地区代表者会議の開催について（通知）
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・生活困窮者の就労に向けて ・倉敷市「真備地区・真備東地区」民生委員児童委員協議会合同定例会 倉敷市玉島地区民生委員児童委員協議会真備ブロック協議会定例会 ・第2回「児島地区要保護児童対策地域協議会」並びに「児島地区子育て支援協議会」の御案内 ・生活困窮者自立相談支援員向け「居住支援に関する研修会〈実践編〉」の開催について
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・重層的支援に関する事例の扱い方についての打ち合わせについて ・市社会福祉協議会との重層支援に関する打ち合わせ（続）について ・倉敷市高齢者・障がい者権利擁護支援ネットワーク会議 ・令和4年度児島地区生活困窮者に関する支援者連絡会について（御案内）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・定例、就労、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議 ・しごと就労支援を切り口にした地域作り（オンライン）
随時	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護児童対策協議会（倉敷・玉島・水島・児島地区） ・緊急支援調整会議 ・倉敷市内の関係機関主催の研修会 ・倉敷地域自立支援協議会精神部会

研修一覧表

実施月	研修名	研修内容
R4.6	令和4年度「アウトリーチ〈訪問支援〉研修」に係る研修	困難を有する子ども・若者育の支援又は相談業務に従事する職員を対象に、アウトリサーチに必要とされる知識・語法及び地域における関係機関との連携並びに多職種が協調した支援のあり方等を広く習得する
R4.7	令和4年度家計改善支援事業従事者養成研修	生活困窮者の家計改善支援事業において配置される家計改善支援員を対象とした養成研修
R4.7	ひきこもりの理解促進と支援向上のための研修会～実践編（ビデオ）	引きこもりの理解促進と支援向上のため（実践編）の録画した内容をYouTubeを用いて視聴する

	デオ視聴) ~	る研修
R 4. 7	ひきこもりの理解促進と支援向上のための研修会～基礎編（ビデオ視聴）～	引きこもりの理解促進と支援向上のため（基礎編）の録画した内容を Y o u T u b e を用いて視聴する研修
R 4. 8	自立支援事業従事者養成研修・就労順美支援事業従事者養成研修	生活困窮者自立支援制度の自立相談支援事業において配置される主任相談支援員、相談支援員、就労支援員を対象とした 3 種の養成研修
R 4. 8	倉敷市要保護児童対策地域協議会研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラー・コーディネーターの配置 連携 昨日の強化 ・ピアサポート等支援者団体への支援 ・オンラインサロンの設置運営・支援 ・関係機関職員研修
R 4. 11	令和 4 年度テーマ別研修	生活困窮自立支援制度の各事業に従事する方を対象とし、時勢にあわせ支援者の専門性を高め、支援の向上を図るため「孤独・孤立の理解とアトリーチ相談支援」「生活困窮者支援における子供と家族支援」をテーマに対象者を理解しアセスメント等の相談支援における視点や手法を取得する
R 4. 12	令和 4 年度生活困窮者自立支援制度におけるブロック別研修	厚生労働省の委託事業として、生活困窮自立支援制度に携わる都道府県の枠を超えた自治体間の行政職員や支援員の交流や支援のノウハウ伝達を目的にお全国 6 ブロックに於いての研修
R 4. 12	令和 4 年度生活困窮者自立支援業関係機関研修会	男性中高年が困窮状態に陥る要因、男性中高年を取り巻く社会的背景や環境変化について理解を深める
R 4. 12	民生委員児童委員研修	<p>①倉敷市生活自立相談支援センターについて ②真備地域生活支援センターについて</p>
R 4. 12	地域ネットワーク形成のための市町村関係職員その他の支援活動従事者等を対象とする研修	支援が必要な子どものための組織を超えた連携の具体的方法を考える研修
R 5. 1	生活困窮者の就労に向けて	生活自立支援制度における農業分野等との連携強化モデル事業に関する本年度の成果を報告すると共にぜんこくの先進事例を紹介し、効果的なモデルの普及を目的に開催する
R 5. 1	生活困窮者自立相談支援員向け	居住支援の基礎知識

	「居住支援に関する研修会（実践編）」	…時生活支援事業と居住支援について 事業説明及び事例発表
R5.2	令和4年度「アウトリーチ（訪問支援）研修」	困難を有する子供・若者の支援又は相談業務に従事する職員を対象にアウトリーリに必要とされる知識・技法及び地域における関係機関との連携並びに多職種が協調した支援のあり方等を広く習得する研修

2022年度　社会福祉法人　めやす箱
倉敷市被災者生活困窮自立支援事業
事業報告書

1. 基本方針

被災者個々の尊厳を大切にし、法人理念である「利用者主体のニーズの追求」「ナンバーワンの福祉サービスを目指す」「職員が働きやすい環境作り」を基本とし、支援に取り組んだ。

被災により生活困窮状態となり、生活再建が必要な者に対し、被災者生活困窮自立支援事業において、生活困窮者支援の観点から、生活再建を目的とした支援を行った。

被災による経済的困窮状態からの脱却や地域からの孤立解消など、本人の状況に応じ、関係機関と連携した包括的かつ継続的な相談支援を行い、社会・経済的自立に資することを目的として支援に取り組んだ。

地域コミュニティーとの繋がりを構築する為に、真備エリアの地域活動に積極的参加し、地域との連携に努めた。

2. 事業の実施体制に関する事

(施設の名称)　倉敷市被災者生活困窮自立支援事業

(事業責任者)　池田　朋宏

(事業担当者)　平松　律子

3. 事業内容

①被災者の生活的自立、経済的自立の支援を目的とした支援

倉敷市被災者支援室や倉敷市真備支え合いセンターと連携し、困窮リスクの高い被災者への自立に向けた、継続的相談支援やアウトリーチ支援に取り組んだ。

②倉敷市被災者支援室・倉敷市真備支え合いセンターとの連携

・被災者の実態把握・困窮リスクの高い世帯の早期発見・生活自立相談支援センターへの支援の繋ぎを行い、個々の支援状況に応じてケース会議等を実施。
同行訪問による見守り支援・状況確認等のアウトリーチの支援を行った。

③倉敷市生活自立相談支援センターとの連携

・被災者の実態把握・困窮リスクの高い世帯の状況把握を行いながら、支援が必要なケースについて、生活自立相談支援センターと連携し自立支援を行った。

④関係機関との連携

・真備地区の地域資源と繋がる為、地域の関係機関への訪問やエリアで開催されているイベントなどに参加し、地域の困り感を掘り下げる活動に取り組んだ。
地域と顔の見える関係を構築する事で、身近に相談する場所がある安心感に繋げる

事ができている。

4. 具体的な支援について

①被災者見守り支援との業務連携

- ・被災者の生活実態を把握、困窮リスクの高い被災者の相談支援を行う。
- ・個別・全体ケース会議へ参加し、生活自立相談支援センターへの円滑な支援の繋ぎを実施。
- ・被災者支援を通じ、地域コミュニティーの再構築や地域との連携を図る。
- ・困窮者事業の周知について、広報活動等積極的に行う。
(相談会の実施・チラシの作成・支援マップの作成など)
- ・被災者見守り・相談支援事業に関係する研修への参加

②生活自立相談支援との業務連携

- ・支援同意がとれた被災者世帯への訪問に同行、面談に同席する等、円滑な支援の繋ぎを行い、モニタリング内容等も情報共有する。
- ・生活自立相談支援センターが実施する（プラン化した被災者世帯）ケース会議に出席する等、相談支援の充実を図る。

③・被災者見守り・相談支援事業に関係する研修への参加

5. 支援実績

①被災者見守り支援との業務連携

電話対応 98 件

アウトリーチ対応 286 件

来所対応 47 件

関係機関との連携 56 件

地域コミュニティーの再構築及び広報活動 37 件

②生活自立相談支援センターへの連携件数

生活自立相談支援センターへの支援開始件数 22 件

5. 年間活動計画

月	活動名
4月	<ul style="list-style-type: none">・被災者見守り、相談支援事業個別支援会議 [事前会議] (5日、19日)・真備支え合いセンターケース検討会議 (7日、21日)・多機関室ミーティング事前共有会議(19日)・被災者見守り、室センターミーティング(20日)・見守り相談支援事業における多機関室ミーティング (27日)

5月	<ul style="list-style-type: none"> ・支え合いセンター、リンク、めやす箱共有協議(9日) ・被災者見守り、相談支援事業個別支援会議【事前会議】(10日、24日) ・真備支え合いセンターケース検討会議(12日、26日) ・個別支援ケース会議(18日) ・被災者見守り、室センターミーティング(18日) ・見守り相談支援事業における多機関室ミーティング(25日)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・支え合いセンター、リンク、めやす箱共有協議(1日) ・被災者見守り、相談支援事業個別支援会議【事前会議】(7日、21日) ・真備支え合いセンターケース検討会議(9日、23日) ・被災者見守り、室センターミーティング(15日) ・【真備復興支援フォーラム】あれからの真備(18日) ・見守り相談支援事業における多機関室ミーティング(22日) ・被災者見守り・相談支援事業 関係機関連絡会議【第1回】(28日) ・岡山県精神保健福祉センター 依存症専門研修(30日)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・被災者見守り、相談支援事業個別支援会議【事前会議】(5日、19日) ・支え合いセンター、リンク、めやす箱共有会議(6日) ・真備支え合いセンターケース検討会議(21日) ・被災者生活支援従事者研修【災害時のソーシャルワーク機能強化研修】第0回(14日) ・被災者見守り、室センターミーティング(20日) ・見守り相談支援事業における多機関室ミーティング(27日)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・被災者見守り、相談支援事業個別支援会議【事前会議】(2日) ・支え合いセンター、リンク、めやす箱共有会議(3日) ・真備支え合いセンターケース検討会議(4日、16日、18日) ・被災者生活支援従事者研修【災害時のソーシャルワーク機能強化研修】第1回(12日) ・被災者見守り、室センターミーティング(17日) ・防災危機管理室による個別避難計画勉強会(31日)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・真備支え合いセンターケース検討会議(1日、15日、20日) ・被災者見守り、相談支援事業個別支援会議【事前会議】(6日) ・支え合いセンター、リンク、めやす箱共有会議(7日) ・被災者生活支援従事者研修【災害時のソーシャルワーク機能強化研修】第2回(14日) ・被災者見守り、室センターミーティング(21日) ・被災者見守り、相談支援事業個別支援会議【本会議】(27日)

	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り相談支援事業における多機関室ミーティング（28日）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・被災者見守り、相談支援事業個別支援会議【事前会議】（4日） ・被災者生活支援従事者研修【災害時のソーシャルワーク機能強化研修】第3回（5日） ・真備支え合いセンターケース検討会議（6日、20日） ・支え合いセンター、リンク、めやす箱共有会議（11日） ・被災者見守り、室センターミーティング（19日） ・ひきこもり支援フォーラム2022（20日） ・被災者見守り、相談支援事業個別支援会議【本会議】（25日）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・支え合いセンター、リンク、めやす箱共有会議（2日） ・被災者生活支援従事者研修【災害時のソーシャルワーク機能強化研修】第4回（4日） ・真備支え合いセンターケース検討会議（10日、15日） ・被災者見守り、室センターミーティング（16日） ・被災者見守り、相談支援事業個別支援会議【事前会議】（22日）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・真備支え合いセンターケース検討会議（6日） ・支え合いセンター、リンク、めやす箱共有会議（7日） ・被災者生活支援従事者研修【災害時のソーシャルワーク機能強化研修】第5回（13日）
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・支え合いセンター、リンク、めやす箱共有会議（4日） ・真備支え合いセンターケース検討会議（10日、19日、26日） ・被災者生活支援従事者研修【災害時のソーシャルワーク機能強化研修】第6回（13日） ・被災者見守り、室センターミーティング（18日） ・支え合いのまちづくり地区フォーラム（21日） ・被災者見守り、相談支援事業個別支援会議【事前会議】（24日） ・見守り相談支援事業における多機関室ミーティング（25日）
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・支え合いセンター、リンク、めやす箱共有会議（1日） ・真備支え合いセンターケース検討会議（14日、16日） ・被災者見守り、室センターミーティング（15日） ・被災者見守り、相談支援事業個別支援会議【事前会議】（21日）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・支え合いセンター、リンク、めやす箱共有会議（1日） ・ケース会議（1日） ・真備支え合いセンターケース検討会議（2日、14日、16日、30日） ・自治体連携・ネットワーク会議 被災者見守り・相談支援事業報告シンポジウム（3日）

	<ul style="list-style-type: none">・被災者見守り、室センターミーティング(15日)・見守り相談支援事業における多機関室ミーティング（22日）・被災者見守り、相談支援事業個別支援会議〔事前会議〕（28日）
--	--

2022 年度 社会福祉法人 めやす箱
倉敷市アウトリーチ等の充実による自立相談支援機能強化事業
事業報告書

1. 基本方針

新型コロナウイルス感染症の影響により、離職や休業等による生活困窮、再就職等が難しく社会から孤立し、ひきこもり状態が長期化する等、支援が必要であるにもかかわらず届いていない状況にある者に対して、アウトリーチ支援を軸とした支援に取り組んだ。

アウトリーチ支援では、訪問型の相談支援を行い、支援に繋がりにくい対象者に対して、支援を届ける事を第一の目標とし取り組んだ。

今年度の相談件数は 3,728 件 となっており相談内容には引きこもり相談は勿論の事、8050 問題など世帯の課題や問題を早期に解決し、自立した生活が営める為の、専門的視点からの支援が必要であった。

アウトリーチ支援事業によって、支援に繋がりプラン化されたケースは、424 件 となっており、アウトリーチに特化する事での成果は見られている。

行政機関・民間機関等の関係機関と円滑に連携する為、毎月引きこもり支援調整会議を開催し、引きこもり状態にあるケースの支援の方向性の検討や関係機関からの情報共有等に取り組んだ。

今年度引きこもり支援調整会議では、41 件 のケース検討を行い、モニタリングは、51 件 検討した。

支援が必要とされる対象者の早期発見・早期支援を行う為、関係機関との連携を中心に行い、アウトリーチ支援のニーズを引き出す事が出来ている。

本人の状態に応じた包括的かつ継続的な支援を継続的に行い、社会孤立を防ぐ為の支援に取り組む事が出来ている。

2. 施設の概要

(施設の名称) 倉敷市アウトリーチ等の充実による自立相談支援機能強化事業

(設置場所) 岡山県倉敷市阿知 1 丁目 7 番 2-804-2 号くらしきシティープラザ
西ビル 8 階

(アウトリーチ支援員) 松本 奈緒

(事業責任者) 池田 朋宏

(資格) 社会福祉士・ファイナンシャルプランナー3級

3. 職員配置図（2022 年 4 月 1 日）（単位：名）

	アウトリーチ支援員
常勤職員	1

4. 事業実績値

(R4 年度目標値)

- ・新規相談件数 1,200 件
 - ・支援計画作成件数 240 件
- (R4 年度実績値)
- ・新規相談件数 3,728 件…達成
 - ・支援計画作成件数 424 件…達成

5. 具体的内容について

①相談支援

- ・引きこもり状態にある方や、相談窓口までアクセスが困難な方、関係機関が支援を必要とする方など、訪問が必要とされる方に対して、自宅や行政機関、医療機関、その他民間機関等、相談者の希望場所に応じた訪問型の相談支援を実施している。
相談者が希望する先に訪問支援を行う事で、支援に繋がりにくい方に対し、必要な支援を届け、自立に向けた支援を行う事で生活の見通しを立てる事ができている。
- ・関係機関が支援を必要とし、支援に繋がりにくい相談者については繋ぎの段階で相談者への介入方法を細かく検討し、丁寧な引継ぎや関係性が構築されるまでの間、関係機関と同行訪問を行いながら支援介入を行い、継続支援へと繋げる事を意識した相談支援を実施している。相談に繋がった後も相談者の状況や課題、支援状況、支援の方向性等を情報共有し、必要に応じてケース会議を実施し、役割分担を行いながら支援連携を図り、伴走した支援を行なう事が出来ている。
- ・引きこもり等家族から相談があったケースについては、家族から当事者に関しての聞き取りを十分に行い、アプローチ方法を検討した上で自宅訪問を行い、初期段階から積極的な関わりが持てるよう当事者と家族それぞれに支援者がつき、訪問支援を実施している。
定期訪問を繰り返しながら信頼関係の構築を図り、当事者の思いを聞き取り、当事者の今の状況や成育歴、生活歴等の聞き取りを行う上で、一人一人に合った声掛けや助言、社会参加に向けた居場所の提案、自立に向けた支援提案等を行い、当事者のタイミングに合わせて伴走した支援を行う事で、一人一人の自立に寄り添い、ニーズに沿った支援を行なう事が出来ている。
- ・医療が必要な方には保健所への繋ぎ、障害の疑いや受容がある者には障害関係機関との連携による相談や障害福祉サービスの利用、就労意欲のある者には生活自立相談支援センターの無料職業紹介や就労準備支援事業、就労訓練事業による就労支援を実施し、当事者の状況に応じた支援提案や繋ぎを行い、関係機関との支援連携強化を図りながら、支援に繋げている。
- ・相談内容や状態・状況に合わせ定期的な面談や必要とする関係機関への繋ぎ・同行支

生活自立相談支援センターによる就労支援や家計改善支援事業、学習支援等への繋ぎを行い相談者に必要と思われる支援提案を行い、相談者のニーズに沿って自立までの一貫した手厚い支援を実施している。

- ・状況や課題は常に変わるものと認識し、相談者の状況や困り感、意向に沿ってニーズの聞き取りを定期的に行い、その時の状況に合わせたスムーズな対応が出来るよう関係機関へのスムーズな繋ぎや同行支援・訪問等を行っている。
- ・関係機関へ繋げた後は、継続的な支援及び円滑な支援が図れるよう、定期的な情報共有やケース会議を実施し、状況の把握や課題整理、支援の方向性、各関係機関の役割分担を行い、支援連携強化を図りながら相談者の自立に向けて支援を実施している。
ケース会議であがった内容を支援に生かし、状況を見ながら関係機関と情報共有を行い支援連携強化に努める事で、自立までの生活をサポートしている。

②支援計画書（プラン）作成

相談者の状況や困り感、これまでの成育歴・生活歴等細かいインテーク・アセスメントを行い、相談者のニーズや課題、理想とする生活にむけて相談者と一緒に整理を行う。その上で、必要と思われる支援や利用できる制度やサービスの提案を行い、自立に向けたプランと一緒に作成し、支援を実施している。

相談者と状況や課題等その都度状況確認及び整理をしていきながら、必要に応じて支援の方向性を再度見直し、再プランを行い、自立までの生活をサポートしている。

アウトリーチ支援を対象とする相談者の中には生活自立相談支援センターでの支援だけでなく、関係機関との連携が支援なケースが多いため、関係機関との連携について内容を盛り込んだプランを作成し、支援を実施している。

③関係機関と連携した支援

- ・アウトリーチ支援事業を対象とする相談者の中には、8050 問題、引きこもり問題、再就職が長期化した方、子供の不登校、障害を抱え生きづらさを抱えている方、自ら SOS を出せない方への支援には関係機関との連携が必要不可欠となってくる。
そのため、必要となる関係機関と情報共有を図りながら、自宅への同行訪問や各支所窓口や、民間事業所（障害関係・高齢関係・児童関係）、病院等への同行支援を行い、連携した支援強化に努めている。
- ・8050 問題では、これまで年金収入で生活を行っていたが入院や介護保険サービスの利用、施設入所等による出費が必要となったことで生活に困窮するケースでは、入院費や施設利用料の支払いを行うための家計の可視化を図ったり、引きこもりになっている当事者への就労支援へ介入をする事で生活の見通しを立て、安定した生活に繋げる事が出来ている。
- ・再就職が長期化し就労ブランクが長く空いた方や引きこもりの方の就労支援に関しては生活自立相談支援センターでの就労支援（無料職業紹介、生活保護受給者等就労自立促進事業の利用）の他、就労準備支援機関、就労訓練支援機関、倉敷地域若者サポート

ステーション等の就労支援機関と情報共有を図り、役割分担を行いながら支援連携を図っている。

相談者の再就職に向けて、これまでの職歴や就職活動での困りや課題を整理した上で必要な就労支援機関へ繋ぎを行い、繋いだ後も関係機関と情報共有や役割分担を行い、支援連携を図り、就労先の確保及び就労定着を行う事が出来ている。

- ・入院費や介護保険サービス利用料、施設利用料の滞納の支払いに関して、一括での支払いが難しい場合には、家計表を作成し収支状況を把握したうえで完済に向けた返済計画を立て、可視化を図った上で病院や介護保険事業所、施設へ滞納の相談を行い滞納の解消及び継続した支払いを行い、安定した生活を送る事が出来ている。
- ・引きこもり問題では、定期訪問を行いながらひとりひとりの状況やタイミングで支援介入が出来るよう医療機関や保健所、障害福祉の相談機関・事業所、居場所支援機関、就労準備支援機関、その他関係機関と密な連携を図りながら横の繋がりを大事にし、相談者に合ったタイミングで支援に介入する事が出来ている。
- ・相談・支援機関に繋がった後も必要に応じて同行支援や情報共有を図りながら支援連携を図り、必要なタイミングで支援を届ける事が出来ている。
- ・子どもの不登校問題では、SSWからの繋ぎや家族からの相談に対し、任意事業である「学習教室くらすぽ」や「小学生訪問型学習・生活支援事業」の情報提供を行い、希望に応じて繋ぎ、見学同行、利用の手続きを行っている。利用後も情報共有を行いながら利用継続に向けて調整を図っている。

(関係機関との連携内容)

月	関係機関との連携内容
4月	<ul style="list-style-type: none">・倉敷若者サポートステーションへの相談同行。・学習支援教室の繋ぎ、見学同行。・介護保険事務所と同行訪問。・玉島支所市民課に相談同行。・SSWと同行訪問。
5月	<ul style="list-style-type: none">・障害基幹相談支援センターへ相談同行。・年金事務所の相談同行。・ウィズアップ倉敷へ相談同行。・医療機関への医療相談同行。・学習支援教室の繋ぎ、見学同行。
6月	<ul style="list-style-type: none">・医療機関からの繋ぎ、アセスメント。・倉敷市発達障がい者支援センターへ相談同行。・不動産業者と内覧見学、契約同行。・ウィズアップ倉敷相談同行。・定時制高校にてケース会議実施。

	<ul style="list-style-type: none"> ・障碍者地域生活支援センターへ相談同行。 ・自宅に倉敷市発達障がい者支援センターと同行訪問。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉課との連携。 ・倉敷西高齢者支援センターと自宅へ同行訪問。 ・不動産業者と物件の内見に同行。 ・玉島支所国民健康保険課に同行。 ・就労継続支援 A 型事業所へ同行訪問。 ・水島保健推進室アセスメント会議実施。 ・倉敷市地域生活支援センターアセスメント会議実施。 ・倉敷市発達障がい者支援センターへ同行訪問。 ・ハローワークとの連携ケース会議を実施。 ・医療機関より繋ぎ、アセスメント会議実施。 ・障がい者就業生活支援センターへ相談同行。 ・社会保険労務士へ繋ぎ、相談同行。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・児島ハローワークアセスメント会議実施。 ・倉敷障がい者就業・生活支援センターへ繋ぎ、相談同行。 ・成人病センターアセスメント会議実施。 ・倉敷西高齢者支援センターと自宅訪問。 ・倉敷市発達障がい者支援センターへ同行訪問。 ・児島ハローワークで児島はばたき、ハローワーク倉敷中央、介護居宅支援センターでケース会議を実施。 ・医療機関受診同行。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・SSW と同行訪問。 ・倉敷市発達障がい者支援センター同行訪問。 ・福祉課からの繋ぎ、アセスメント会議実施。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・児島保健推進室連携会議。 ・西阿知小学校でケース会議。 ・保健師と訪問同行、アセスメント会議。 ・弁護士事務所に相談同行。 ・SSW の繋ぎでアセスメント会議実施。 ・保健師連携同行訪問実施。 ・福祉援護課、倉敷基幹地域生活支援センター、保健師と同行訪問。 ・琴浦高齢者センター繋ぎ、アセスメント会議実施。 ・保健師、発達障害者支援センターと同行訪問。 ・母親と発達障がい者支援センターへ相談同行。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷市発達障がい者支援センターへ相談同行。

	<ul style="list-style-type: none"> ・保健所、倉敷市発達障がい者支援センターと同行訪問。 ・倉敷総合法律事務所へ相談同行。 ・福祉援護課・倉敷基幹相談支援センター・保健師と同行訪問。 ・医療機関・保健所・倉敷中部高齢者支援センター・福祉援護課とケース会議実施。 ・就労準備支援機関への繋ぎ、相談同行。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷市発達障がい者支援センターへ相談同行。 ・倉敷市保健所へ繋ぎ、相談同行。 ・パブリック法律事務所倉敷へ離婚相談に同行。 ・みどり荘ケアプランセンターのケアマネと同行訪問。 ・真備地域生活支援センターでアセスメント会議実施。 ・倉敷総合法律事務所に相談同行。 ・保健師より繋ぎ、玉島支所でアセスメント会議実施。 ・就労移行支援事業所彩、相談支援事業所てとて、本人と4社面談。 ・本庁国民年金課、国民健康保険課へ同行し、納付相談。 ・児島保健推進室、倉敷市発達障がい者支援センターと自宅訪問。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷西高齢者支援センターへ同行訪問。 ・ハローワーク精神障がい者トータルソポーターとの連携。 ・精神保健係保健師、水島地区保健師への繋ぎ。 ・倉敷市発達障がい者支援センターと同行訪問。 ・倉敷市障がい者就業生活支援センターへ繋ぎ、相談同行。 ・年金事務所へ相談同行。 ・倉敷地域生活支援センターへの繋ぎ、相談同行。 ・医療機関にて地区担当保健師、PSWでアセスメント会議実施。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズアップ倉敷への同行相談支援。 ・学習支援教室の見学及び繋ぎ。 ・発達障がい者支援センターと同行訪問。 ・小学校でケース会議を実施。 <p>倉敷児童相談所、子ども相談センター、小学校校長・担任、中学校校長・担任、児童家庭支援センタークムレ、SSW同席。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSW、就労準備支援センターでケース会議を実施。 ・SSWと自宅同行訪問。 ・就労移行支援事業所からの繋ぎ、アセスメント会議実施。 ・地域子ども食堂からの繋ぎ、アセスメント会議実施。 ・発達障がい者支援センター、生活自立相談支援センターで面談を実施。 ・児島保健推進室保健師と同行訪問。

	<ul style="list-style-type: none"> ・就労移行支援センター、ハローワーク倉敷中央、岡山障がい者職業センターでケース会議を実施。 ・福祉課に同行相談。 ・児島保健推進室と医療機関へ受診同行。 ・パブリック法律事務所へ相談同行。年金事務所に相談同行。
--	--

④関係機関との情報提供・共有

- ・行政機関・民間機関の関係機関と円滑に連携を図るため、毎月引きこもり支援調整会議を開催し、引きこもり状態にあるケースの支援の方向性の検討や関係機関からの情報提供を受け、その情報を基に実際の支援に生かし、一人ひとりの状況にあった支援提案や関係機関への繋ぎを行い、自立に向けた支援を行っている。
- また、関わっている関係機関やこれから繋ぎを行うとする関係機関と密に連携を図り、横の繋がりを大事にしながらスムーズに支援が行えるよう支援連携強化に努めている。
- 個別ケース会議では支援の状況把握や課題、支援の方向性を検討し、各関係機関の役割分担を行い、支援連携強化を図りながら自立に向けた支援を実施している。

⑤生活困窮者任意事業との連携

- ・相談者のニーズに沿った支援を行う中で任意事業の積極的な活用を行い、必要に応じ連携を図った支援を行い、自立に向けた支援を行っている。
- ・就労困難者には就労準備支援事業や就労訓練事業への繋ぎを行い、密な連携を図りながら就労支援に加え生活支援が必要な場合には役割分担を行いながら支援連携を図っている。
- ・子どもが不登校になっている方には「学習教室くらすぽ」や「小学生訪問型学習・生活支援事業」の情報提供を行い、希望に応じて繋ぎ、見学同行、利用の手続きを行っている。利用後も情報共有を行いながら利用の頻度が少ない方に関しては状況や意向確認を行い利用継続に向けて調整を図っている。

当児童が学校や家族以外の者と関わりを持つ事で相談できる人の存在や居場所ができ、学習の遅れに関しても学習機会が確保できる事で学力向上に繋がり、それが自信となり、再び学校に徐々にではあるが、登校する事が出来るようになっている。

- ・家計課題を抱える方には家計改善支援事業への繋ぎを行い、家計改善に向けて家計相談員と連携を図り、保険料や税金、債務の返済、医療費の返済、介護保険の利用料等の返済の目途を立て、各支所や各窓口に同行し、相談者が継続して納付及び返済が出来るよう支援を行っている。完済の目途が立ち生活の余裕が埋まれ見通しを持つ事が出来、不安感の解消に繋がっている。

相談者自身が自分の力で家計のやりくりが出来るよう、家計能力の向上に向けて支援を行っている。継続して関わる事で家計への改善意識が向上し、自身で家計表をつけ、収支に合った家計管理が出来るようになっている。

⑥余暇活動・サロン活動の取り組み

- ・社会参加困難な方や、引きこもりの方等を対象に、余暇活動の提供やサロン活動の提供を行っている。

2022年10月にワークショップを開催している。

内容：「ワークショップ第一回！SDGS を学ぼう！広げよう！自分アレンジ！廃材・布を使ったリメイク活用術！」

講師を呼んでエコバック作り・SDGS カラーのストラップづくりを通して居場所を提供している。

6. 事業目標（具体的取り組み）

①新規相談者の増加

- ・関係機関からの支援の繋ぎは 6,924 件となっており、関係機関がアウトリーチ支援事業を認知する事で、相談増となつた。

②アウトリーチ支援を通して関係機関との連携強化

- ・アウトリーチ支援を活用して、関係機関とのネットワークを活用し、同行支援など積極的に行つた。関係機関との連携は、個別ケースを通して行い、他機関の開催する研修会などにも積極的に参加し、アウトリーチ支援の周知に取り組む事ができている。

また、定例開催している引きこもり支援調整会議では、教育・保健・精神保健福祉の各分野の専門的家の意見を交え、アプローチ方法や支援の方向性について検討を行い、センターでのアウトリーチ支援に活用している。

③アウトリーチ支援員のスキルアップへの取り組み

- ・引きこもり支援や伴走型支援・アウトリーチ支援などの研修会に積極的に参加し、支援の向上を図った。（研修一覧参照）

また、アウトリーチ支援相談員に限らず、相談支援員や就労支援員へのフィードバックを行う事で、アウトリーチ支援で繋がつた対象者の早期支援に繋げる事が出来ている。

④社会資源の把握・連携

- ・高齢者支援センター・社会福祉協議会等と連携し、社会資源への繋がりを意識し、支援に取り組んだ。

社会福祉協議会のフードパントリーの活用や、高齢者の居場所・サロンなどを活用した支援など、地域資源を意識的に活用し支援に繋げる事が出来ている。

7. 年間活動計画

月	活動内容
1月	<ul style="list-style-type: none">・ひきこもり対象者支援調整会議・個別担当ケース会議
5月	<ul style="list-style-type: none">・ひきこもり対象者支援調整会議・個別担当ケース会議

6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議 ・個別担当ケース会議
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議 ・個別担当ケース会議
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議 ・倉敷地域自立支援協議会精神部会
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議 ・生きるを支えるフォーラム 2022
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議 ・倉敷地域自立支援協議会精神部会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議 ・倉敷市高齢者・障がい者権利擁護支援ネットワーク会議 ・個別担当ケース会議
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議 ・ひきこもり支援を考える専門分科会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議 ・倉敷地域自立支援協議会精神部会 ・個別担当ケース会議
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議 ・個別担当ケース会議

7. 研修一覧表

実施月	研修名	研修内容
R 4. 6	令和4年度「アウトリーチ 〈訪問支援〉研修」に係る研修	困難を有する子ども・若者等の支援又は相談業務に従事する職員を対象に、アウトリサーチに必要とされる知識・語法及び地域における関係機関との連携並びに多職種が協調した支援のあり方等を広く習得する
R 4. 7	ひきこもりの理解促進と支援向上のための研修会～実践編 (ビデオ視聴)～	引きこもりの理解促進と支援向上のため(実践編)の録画した内容をY o u T u b eを用いて視聴する研修
R 4. 7	ひきこもりの理解促進と支援向上のための研修会～基礎編 (ビデオ視聴)～	引きこもりの理解促進と支援向上のため(基礎編)の録画した内容をY o u T u b eで視聴する研修
R 4. 8	倉敷市要保護児童対策地域協	・ヤングケアラー・コーディネーターの配置

	議会研修会	連携昨日の強化 ・ピアサポート等支援者団体への支援 ・オンラインサロンの設置運営・支援 ・関係機関職員研修
R4.10	生きるを支えるフォーラム 2022	「援助希求力の大切さとストレスの対処法について」等講義及び研修の実施 引きこもり支援における、当事者の想い、支援者として心構え等学んだ
R4.12	倉敷市高齢者・障がい者権利擁護支援ネットワーク会議	権利擁護支援に関する研修及び DV について事例検討を用いて説明
R4.12	地域ネットワーク形成のための市町村関係職員その他の支援活動従事者等を対象とする研修	支援が必要な子どものための組織を超えた連携の具体的方法を考える研修
R5.2	令和4年度「アウトリーチ 〈訪問支援〉研修」	困難を有する子供・若者の支援又は相談業務に従事する職員を対象にアウトリーリに必要とされる知識・技法及び地域における関係機関との連携並びに多職種が協調した支援のあり方等を広く習得する研修